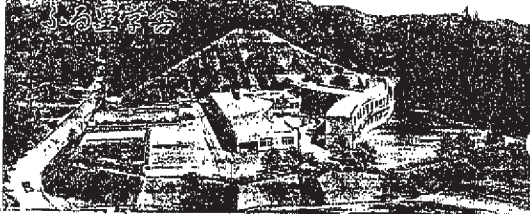


社会福祉法人 佑啓会



佑 啓

社会福祉法人 佑啓会 ふる里学会
〒230-02 市原市今富 1110-1
☎0436-36-7611
発行者 里 見 吉 英
編集者 三 股 金 利

エベレストは何処

里見 吉英

「ナマステー」
「ナマステー」

手を合わせての挨拶。おはよう
こんにち。こんばんはから、さ
ようならまで何でもこれひとつで
済んでしまう大変便利な国、ネパ
ール。

今回、国際児童情報センターの
現地調査団(五名)の一員として
ヒマラヤの国、ネパールを訪ねし
た。

当初はバングラディシュが目的
地であったが、現地の政情不安(大
使館員が襲われたりした)のため
急きよ変更になり、内心エベレス
トが見られるという単純な動機か
ら喜んで参加してしまった。パン
コクからカトマンズへ一日がかり
で移動し、現地四泊五日で各国の
NGO活動の視察とネパールの子
どもの置かれている現状調査を行
った。

パンコクからの機内は大半がエ
ベレスト近辺のトレッキング目的
の観光客が占め、美しい国への期
待で目的を忘れるほど胸が高鳴っ
た。しかし、カトマンズに降り立
つと同時に現実が直視してしまっ
た。七、八歳の子ども達から老人
らしき人達まで、数十人が待ち受
けて、たちまち取り囲まれてしま
い、私たちの荷物を奪い取ろうと
する。「何だこりやあ」と思いな

がらも必死で自分の荷物を確保し
ながら迎える車に乗り込む。事前
に聞いてはいたが、数メートルの
距離を運びそのチップで生活する
人々。「これはえらいところに来
てしまった」というのが本音であ
った。

ホテルに入り、日本のNGO駐
在員の定松さんの説明を受けると
益々不安が募った。水は飲みがき
までミネラルウォーターを使うこ
と。停電は日常茶飯事の為、懐中
電灯を用意すること(私は持参せ
ず室内にあったロソクをそばに
置いて寝た)。食事はホテルや一
流所は大丈夫だがそれでも一回は
胃腸をやられ、菌が体内から出る
まで数日かかること等の注意事項
が続く。

普段節制ということが一番苦手
な私にはこれだけでも憂鬱にして
くれた。日本大使館曰く「現地の
水を飲む場合、三十分間沸騰させ
た後、特殊なフィルターでろ過し
てから飲むよう日本人滞在者には
通達が出ている」「三十分も沸騰
させたら水がなくなってしまうの
ではないか」などと冗談半分に言
ったら、「それでもあたる人はあ
たる」と言われた。世界一美しい
山々に囲まれたこのネパールでな
げと思つたら、汚水処理の設備が
なく全て地下に汲み込まれてしま

い、それを汲み上げていたためで
はないかとの説明。オヤオヤ
そして世界最貧国のこの首都カ
トマンズは、不名誉にも世界一汚
れた都市に指定されたそうだった。
まあいいが、エベレストが眺め
られたいい思い出になる。
定松さん曰く「五日間滞在すれ
ば一日や二日必ず見えますよ。余
程心がけの悪い人でなければ。そ
れにこのホテルは一番きれいに見
える場所に建っています。あの方
向ですよ。」指差す方向を見ても
何にも見えない。今後のお楽しみ
にしよう。

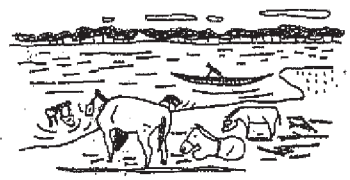


二日目から準備された日程どお
り調査開始。それにしても何て埃
っぽい町なのか。半日歩くと顔は
ざらざら、服はほこりだらけ。牛も
豚もヤギもみんな放し飼いの「ゴミ
を食べて成長しているとのこと」
こんなことばかり書いてみると、
肝心の調査内容を紹介できなくな
ってしまいそうなのでそろそろ触
れてみよう。

この国の国民性は非常に日本人
に似ていて、はずかしがり屋だそ
うだ。しかし、一部観光客、人達

はこれに非ず。どのくらい貧しい
かと言うのをまず実感したのは一
万円を両替したら札束になって返
ってきた時である。みんなこれ
どうしようというような感じで顔
を見合わせ、大金持ちになった気
分。また脱線しそうなので子ども
の語に戻すと、家が貧しいため、子
どもは親を助けるため早くから
(六歳前後) 家事の手伝いや弟妹
の世話などの仕事を始め、年齢が
上がるに従って農業や賃金労働
(都市部への出稼ぎを含む) など
に従事するようになる。また都市
農村に共通して、ネパールでは知
的労働の雇用機会が少ないため親
の側に苦勞しても子どもに教育
を受けさせようという動機が少な
い。この結果、一般的に貧しい家
の子ども程、教育を受ける機会が
乏しくなる。特に女の子は、殆ど
の場合十代で嫁いで行く。またそ
の際には多額の持参金が必要にな
ることから、親の側に大事に育て
ようという気持ちも少なく、教育
に限らず食事や労働など、全ての
面で男の子よりも差別される傾向
が強い。

都市部に出稼ぎにきた子ども達
はじゅうたん工場等の劣悪な労働
環境のもとに、低賃金で一日十五
時間労働は普通という過酷な労働
を強いられる。いわゆるストリ
ートチルドレン(路上生活する子
ども)でも、その数一五〇〇人とも
言われる)になることが多い。さら
に女の子の場合、インド等へ売春
婦として連れ去られることも日常
的に行われている。(毎年五〇〇
〇人程でそのうち二〇%が十六歳
未満の少女である。) 実際じゅう
たん工場を視察したが、(いくつ
かの工場に立入を断られた) とに
かく表現したい環境であった。
十歳前後と思われる子どもが機械
の前に座り、黙々と織り続け
ている。指の皮が剥がれて変形し
ている子どももいた。「君たちど
こで寝るの?」とたずねると、「こ
こ。」「ここ?」要するに工場が
寝床になるのである。床は地のま
まそこに毛布らしきものにくるま
って寝る。屋根があるだけましな
のだそうだが、ついつい同じ年頃の
我が子の顔がちらつき、直視でき
ないような状況であった。このシ
ョックは帰国して今になってもな
かなか抜けず、我ながらちよつと
困っている。それにしても、ここ
で織られたじゅうたんは素晴らしい。
主にヨーロッパに輸出される
そうだが、最近この児童労働の問
題がヨーロッパでも取り上げられ
不買運動が起こり、この国の経済
に影響を及ぼしているとのこと。



(裏面に続く)

(表面の続き)

そしてその影響はこの子どもたちの生活にも及んでいる。この国では子どもの労働には目をつむり、その労働条件を改善してゆくことが現段階では一番有効な手段らしい。不買運動がこの子どもたちの生活も脅かす。何とも皮肉な結果である。

ところで、知的障害児であるが殆どの場合育たない、もしくは育てないのだそうだ。養護施設も訪問したが、その園長曰く「知的障害者を入所させると、滞留化してしまい殆どの場合断らざるをえない。」実際五日間いろいろなところを訪ねたが、知的障害児と出会ったのは一人のみであった。

国民の約八〇％がヒンズー教徒であり、カーストが日常生活に様々な影響を与えているネパール。洗濯カーストに生まれると洗濯を、また掃除カーストに生まれると掃除に生涯従事する。それをまっとうすることが、来世の幸せにつながるという。何とも理解しがたいが、その宗教・民族性を尊重しながらこの国への効果的な援助は困難をきわめるだろう。

しかしながら、駐在員の定松さんの言葉が今でも残る。「この制度も全て人間が作ったもの。ならば人間の手で壊せないことはない。」

最後に五日間晴天に恵まれたのにも拘らずエベレストはどうとう姿を見せなかった。
「ナマステー」合掌。



ポランティア・勤機と心得

菊地 武雄

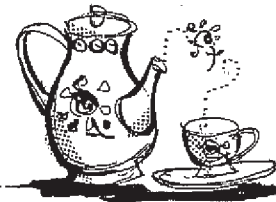
在職時、退職後私に何が出来るか、目標とすべきライフスタイルを考えたとき思案してしまいました。自信をもって答えることの出来ない自分に情け無い思い、入社以来、会社・組織人間にドブプリ浸っていたと気付き目覚めた思いでした。何の取柄もない自分にも、ささやかでも社会のために役立つ心の通った人生を創造する事が出来るはずと真剣に考えました。そんな時田舎の兄貴の持説「一隅を照らす人生(天台宗の開祖・最澄の教え)」を心がけてみてはの一言。

自分にも出来るかもしれない、福祉への思いと相俟ってポランティアという六文字が浮かびました。早速、何か地域に役に立つ事があるはずと通信教育を受ける事にしました。以上がポランティアを志したきっかけです。

「感動を求め行動する」をモットーに、若い人達からはエネルギーと頑張りを、年配の方々からは、経験豊富な人生観・心の豊さを頂戴し、基本的心得が大切と、書籍や先輩より基本理念や考え方を学び私の理想を追い求める日々となりました。

ポランティアをしていく上での重要な基礎概念は、自分や他人、自然も皆一生懸命に生きているということです。

特に人は皆平等なのだと思ふ心がけが大切です。情緒的な言い方になりますが、頭で考えるよりも心からの行動です。他人の喜びを、自分の喜びとする生き甲斐です。また人間関係をどの様に保つかだと思ひます。「おはよう」にしても「こんにちは」「ありがとう」にしても気持ちの上で何が基礎かといえれば行動あつての感動だと信じています。まず自分から声を掛ける大切なことだと思つております。



それから常に忘れてならないのは施設の利用者や職員さんの秘密は必ず守り、迷惑をかけないという心がけです。小さな親切でさりげない世話大きなお世話にならない様に注意する。いずれにしても労働を惜しまず、結果を過大評価することなく、良くやったと自分一人で満足するくらいのもので活動することが大切なのではないでしょうか。

施設内においても、施設の意義や理念について十分に理解し、利用者の生活の場を大



切にし、且つ尊重し職員とのパートナーシップ関係を守り、各々の自覚の基に仕事の役割を認識し、分担を決め協力することです。勝手に自己判断しない姿勢、心配りが必要です。勿論、施設の利用者や職員さんのプライバシーに関する秘密は必ず守るということをお忘れず、迷惑をかけない心がけが大切です。

「施しをしていると思ひ上がると自分も駄目になってしまふ。自分の為に自然な気持ちで、気負わず無理無く楽しみながらするのでなければ長続きはしない。」

これからも、ささやかでも社会との繋がりが、社会に対する責任を果たす中で、自分を活かす事が出来れば、それに優る幸いはないと思ひ活動してまいります。

菊地さんには毎週火曜日に学舎に来ていただいています。そのほか老人ホームでもポランティアをしているそうです。

僕の入院生活

飯田 俊男

「明日手術です。毛を剃ります。処置室へ」看護婦さんからの呼び出しである。こんな時に恥ずかしがついてると相手に悪いだろうなという妙な気を遣いながらも胸の高なりを抑えるのはやはり大変であった。

身体を煩い入院した時の出来事である。最初は、自宅近くの名の知れた大きな病院に受診したが、一向に腹痛の原因はわからず検査・検査の毎日。その検査も予約まで二週間結果がでるまで二週間といった繰り返して時間だけが過ぎていった。

そんな時、知人の紹介で職場近くの小さな開業医を訪れてみた。こんな小さな所では、分かるわけないだろうと半ば諦めていたが、何とその日のうちに腹痛の原因が分かり手術が必要とのこと。医師自ら入院設備のある病院に予約までしてくれた。

入院した所はこれといった噂も聞いたことのない病院だったが、看護婦さん等スタッフの対応は、しつかりとしたものであった。ドクターも朝早くから夜遅くまでの勤務にも拘らず病室に何度も足を運んでくれ病状の説明やら、治療方法など話をしてくれた。忙しい中にも余裕がその仕事ぶりには感じられ患者としては大変リラックスした療養ができ、恐らく家族も安心して私を病院に預けることができたように思う。この病院のスタッフの仕事ぶりは、見ていてすがすがしいものを感じた。入院は何度か経験しあつた病院なら間違いないと言われた所に、いくつかお世話になったが事務的であつたりそつけないものだったことが記憶にある。病院なんてそんなものかと思つていただけに、今回は良い刺激を得ることができた。

結局、われわれの分野と重なるものは多いと思う。利用者思いやる心のゆとりが、忙しい中でも自然にどれだけでもあるか、職員一人ひとりの人間性や力量が利用者大きく影響し、強いでは、施設を大きく左右することを改めて感じた。

開所して4年目。我々の施設もいつの間にか「昔は良い施設だったのに」と過去のものにならないよう気をつけなければならぬ。

初めての手術。ドラマのような手術台に乗せられ感動しているのはつかの間。あつという間に、生まれたままの姿にされてしまい、看護婦さんの視線が気になったことも印象的であつた。



・編集後記

四月より新体制となり早一カ月。寮生・職員共に新鮮な気分で作業に励んでいます。機関紙も今年で四年目を迎え、一号より携わってきた私にとり、発行する度に苦悩の連続ですが、期待される「佑啓」をめざし頑張ります。皆様の感想心よりお待ちしております。

遠山 貴子

サービスイリアでの販売始まる

市原市内知的障害者入所施設連絡協議会は、道路施設協議会・株式会社小田急レストランシステムの御理解を得、上り市原サービスイリア内で施設の生産物を販売しております。ぜひ、ご覧ください。